

神奈川県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン

既に全国トップの充電インフラ設置の実績を持つ神奈川県だが、今後は幹線道路沿いや小田原厚木道路IC付近という経路充電と、観光地や商業施設などの目的地充電で、急速477カ所、普通531カ所の設置を進める。

EVが数多く走る世界有数のエリアとして EV普及に向けた独自の取り組みを加速



EVタクシーと一緒にLPGタクシーが交互に配車される仕組みの済生会横浜市東部病院の「EVタクシーシェアのりば」



1 横浜駅東口タクシープラザのEVタクシー乗り場は、いちばん手前のレーンなので乗降しやすいメリットもある。2 白いカモメのシンボルマークが神奈川のEVタクシーのシンボル。3 八景島シーパラダイスでEV電源を利用したイベントの模様



今後の展望

自立的なEV普及へ

急速充電インフラの整備が進んだことによって、航続距離の不安が改善されつつあるため、今後は補助金に頼らない自立的なEV普及が必要。EVタクシーの取り組みや、EVを活用した観光の活性化、急速充電器への課金制度の導入なども推進していく。

現状

2年前倒しで目標達成

2013年3月末時点のEV普及台数は4398台、急速充電器159基となり、2年前倒しで目標数を突破。早い時期からメーカー等と連携して初期需要の創出に尽力したこと、独自の購入補助金のほか、様々な取り組みが奏功している。

目標

EV3000台を目指す

2008年に策定した「かながわ電気自動車普及推進方策」では究極のエコカーであるEVに特化した普及の取り組みを行い、2014年度までの目標はEV普及が3000台、充電インフラとして急速充電器を100基、県内に整備する。

早

くもEVの導入目標台数をクリアした神奈川県では、補助金に頼らない自立的なEV普及に向けて、EVの魅力を多角的に発信していく取り組みが行われているが、なかでも特徴的なのがEVタクシーの活用だ。

「かながわEVタクシープロジェクト」[YOKOHAMA Mobility Project ZERO]のジョイント活動として、全国で初めて本格運用されているのが、横浜市鶴見区の済生会横浜市東部病院が導入した「EVタクシーシェアのりば」だ。一般的のLPTタクシー専用の待機スペースを2台分設け、乗り場にはそれぞれが交互に配車される。EVタ

クシーは数が少なく次々と配車されるため、収支ではLPGタクシーを上回っているという。2013年6月から横浜駅東口のタクシープラザで正式運用が始まった「UD-EVタクシー専用待機レーン」は、大きな荷物を持った人や車イスの人の使いやすさを考えて、乗り場のいちばん手前側にUD（ユニバーサル・デザイン）タクシーとEVタクシーのレーンを設定。同時に、両タクシーの稼働率アップを目指す。福祉都市と環境に優しい低炭素都市の実現に取り組む横浜市が主導する試みだ。

このほか、県ではEVと観光を組み合わせた普及策も展開しており、観光事業者などとタイアップしたEV優待付きの観光

利用者の視点

EVタクシーの存在感

日常的にEVを見かける機会も多い神奈川県。ボディを同一のカラーとラッピングで統一したEVタクシーはEVの存在をアピールする効果も高い。「EVタクシーシェアのりば」の利用者アンケートでは75%にも及ぶ人が「EVタクシーを優先的に使いたい」と回答している。

コース設定や観光地でのイベントを実施している。

EVを利用することで、EVへの理解も深まり、それが普及につながっていく好例といえそうだ。

